

「災害支援対策委員会」

1. 構成員

1) 委員

委員長：守田美奈子（日本赤十字看護大学）

委員：竹崎久美子（高知県立大学）、竹本由香里（宮城大学）、千葉由美（横浜市立大学）、
内木美恵（日本赤十字看護大学）、西上あゆみ（藍野大学）、松成裕子（鹿児島大学）、
山崎加代子（敦賀市立看護大学）、山下美智代（筑波大学）

2. 趣旨

看護系大学における防災および災害支援にかかわる事業として、看護系大学間の情報共有や連携のあり方、防災教育等の重要事項を協議し、本事業の円滑、適切な運営を図る。

3. 活動経過

2024年度の災害支援対策委員会は6回開催した。新理事体制のもと委員会メンバー8名中3名が変更、1名が追加となり合計9名の委員で活動した。委員会では1) JANPU 災害大学間連携ネットワーク（以下連携ネットワークと称す）体制の整備と機能の充実、2) 連携ネットワークによる相互支援のためにブロック内あるいはブロック間における支援方法等を検討する、3) 2023年度実施の「災害の備えに関するアンケート調査」結果のさらなる分析を行い、JANPUにおける支援課題と方法を検討する、4) 災害フォーラムの開催、5) 各会員校の災害の備えに関する取り組み事例の収集を行う。さらに会員校の実践知を共有するためにホームページの充実を図る、6) 防災マニュアル指針2022の改訂版の検討を行う、の6項目を事業計画に掲げ活動を行った。

1) 災害対応のための大学間連携体制の整備と充実について（資料1参照）

2024年度は、新規に13校が加わり、2025年2月時点で登録校は291課程（95.7%）が連携ネットワークの構成員となった。「連携ネットワーク」は、全国を7つの大ブロック（北海道・東北、関東（東京以外）、東京、中部、関西・近畿、中国・四国、九州・沖縄）に分け、さらに府・道、県等の小単位からなる小ブロックに分けている。大ブロックでは年間1～2回の会議を開催し、さらに小ブロックでは地域によって違いがあるが年4～10回程度の会議を開催している。

大ブロックでは定期的に会議を開催することで、各会員校の防災対策や災害発生時の対応などに関する情報交換を行っており、「連携ネットワーク」の目的である顔の見える関係が形成されてきている。一方で、各会員校の担当者が入れ替わることで、会員校間の情報や連携ネットワーク組織の意義への理解に温度差があったり、小ブロックでの会議開催状況や災害対応等は地域によって違いがみられる等の課題が挙げられている。

これらの課題に対応するために、会員校間による引継ぎ方法の工夫や、新規担当者へのガイダンス等を検討している。JANPU 災害大学間連携ネットワークの体制は整備されてきたが、この体制を維持し機能させるための課題への対応を強化する必要がある。

2) JANPU 災害大学間連携ネットワークによる相互支援について

<災害発生時の被害状況と支援ニーズ調査>

連携ネットワークによる相互支援活動として災害発生時の調査と支援ニーズの確認を行っている。

風水害も含めた災害発生時には、会員校の負担にならない時期を見計らい、連携ネットワークのブロック担当者を介して、Web 調査やメールなどを活用して該当地域の被害状況と支援に関する調査を実施している。

2024 年度は、下記のような災害による被害が生じた。いずれも各会員校で対応しており、JANPU への支援ニーズは特になかった。

- ① 2024 年 4 月 17 日（水）に豊後水道を震源とする震度 6 弱の地震が発生した。中国・四国ブロックでは小ブロック間で自主調査を行い、交通障害があり来校が困難等の被害が生じたが、建物その他の被害はなかった。大分県も震度 5 弱だったため、メール調査を行ったが、被害はなかった。
- ② 2024 年 8 月 8 日（木）宮崎県日向灘沖で震度 6 弱、M7.1 の地震が発生した。9 月 25 日～10 月 9 日まで Web 調査を実施した。15 校/34 校からの回答があり、被害があったとの回答は 1 校のみであった。建物接合部のずれや天井の剥落等の建物の被害、エアコンの水漏れ、数分間の停電、等の被害があった。
- ③ 2024 年 8 月 29 日（木）～9 月 1 日（日）にかけて、台風 10 号が日本列島を縦断したことで被害が発生した。調査は、グーグルフォームとスプレッドシート（中国ブロックのみ）を用いて 8 月 31 日～10 月 11 日にかけて、関西・近畿ブロック、四国・中国ブロック、九州・沖縄ブロックで調査を実施した。九州・沖縄ブロックでは 14 校/34 校（回収率 41.2%）から回答があり、そのうち 4 校（28.6%）に被害があった。中国・四国ブロックでは 24 校/30 校（回収率 80%）のうち 10 校（41.7%）に被害があった。関西・近畿ブロックでは 32 校/55 校（回収率 58.2%）のうち、2 校（6.25%）に被害があった。被害内容はインターネット環境の不具合、建物内への水たまり、空調の不具合などであり、周辺の冠水や交通障害により、授業・実習の中止、休講、試験日程の延期、リモート授業への変更等の対応を行ったとの報告があった。

3) 2023 年度実施の「災害の備えに関するアンケート調査」結果のさらなる分析を行い、支援課題と方法を検討する

アンケート調査から、安否システム、BCP の策定、JANPU 防災マニュアル指針の活用などが課題となっている。今後はフォーラム企画や防災マニュアル指針、ホームページ等を活用して、会員校の防災対策に寄与できる方法を検討していく。引き続き次年度も取り組む予定である。

4) 2024 年度災害フォーラムの企画・運営（資料 2 参照）

2024 年度は「能登半島地震から学ぶ大学の防災」のテーマで、2025 年 2 月 15 日（土）13 時～15 時に開催した。災害支援対策委員会ブロック活動の概要報告を行った後、能登半島地震特集として、①令和 6 年能登半島地震の被害と JANPU 対応、②石川県立看護大学の対応（川島和代氏、石川県立看護大学）、さらに石川県への大学からの学生派遣の実際として、③災害支援を通じた看護学生の成長と地域コミュニティ形成（佐藤大介氏、福井大学）、④活動内容と派遣システム（小寺直美氏、四日市看護医療大学）、⑤派遣を可能にするカウンターパート（國松秀美氏、宝塚大学）のテーマで各校からの報告を行った。

今回のフォーラムについては、195 名参加の中 130 名から回答があり、99.2%の方が「役に立った」と回答した。フォーラムの意図はかなり達成できたと考える。開催日時や次回のテーマ等についての参加者からのアンケート結果をもとに、次年度のフォーラム企画に生かしていきたい。

5) 会員校の情報共有を図るための Web ページの改修 <https://www.janpu.or.jp/earthquake/>

各会員校の災害の備えに関する取り組み事例の収集や実践知等の情報を共有するために災害に関する Web ページの検討を行った。トップページのバナータイトルを「災害支援：情報と知識の提供」に変更し、このコンテンツ中の「防災マニュアル指針」に加え、「JANPU 大学間連携ネットワーク体制」「被災状況実態調査」バナーを新たに追加する等、改修の検討を行った。これらの改修により、災害支援に関する情報が得やすくなったかどうか、次年度以降評価を行っていく予定である。

6) 防災マニュアル指針 2022 の内容検討

2023 年に実施したアンケート調査をもとに、防災マニュアル指針 2022 に追加修正する項目等の検討を開始した。引き続き、次年度の活動として継続する予定である。

4. 今後の課題

- 1) 連携ネットワークのブロック会議を適切に運用するとともに、連携ネットワークを維持し機能強化を図るための運営上の工夫を行う。
- 2) 大学間の連携と相互支援の一環として、災害発生時の被害およびニーズ調査を継続して実施する。さらに、それらの情報を共有するためにホームページで配信する。
- 3) 2023 年度実施のアンケート調査に基づき、防災マニュアル指針 2022 の検討を行い、2025 案の検討を行う。
- 4) 会員校の防災対策に寄与できるよう、フォーラム企画と運営を行う。
- 5) 災害に関する会員校の取り組みに関する情報を収集し公開する。

5. 資料

資料 1. JANPU 災害大学間連携ネットワーク体制

資料 2. 2024 年度災害フォーラム「能登半島地震から学ぶ大学の防災」のアンケート結果

JANPU災害大学間連携ネットワーク
ブロック活動（ブロック名と登録校推移）

広域ブロック名	開始時 2021/1/8 287会員校	前年度 2024/2/1 299会員校	今年度 2025/2/4 304会員校	小ブロック名
北海道・東北	22(66.7%)	31(93.9%)	31(91.2%)	北海道、北東北（岩手 & 青森 & 秋田）、 南東北（宮城 & 山形 & 福島）
関東（東京以外）	41(69.5%)	54(88.5%)	56(91.8%)	茨城 & 栃木、群馬 & 埼玉、神奈川、千葉
関東（東京）	15(57.7%)	24(92.3%)	26(96.3%)	23区、23区外
中部	39(73.6%)	55(96.5%)	57(98.3%)	岐阜 & 愛知、新潟 & 長野、山梨 & 静岡、 石川 & 富山 & 福井
関西・近畿	33(62.3%)	54(96.4%)	57(100%)	京都 & 滋賀、兵庫、三重、大阪 & 奈良 & 和歌山
中国・四国	22(68.8%)	27(84.4%)	30(90.9%)	中国（鳥取 & 岡山 & 島根 & 広島 & 山口）、 四国（高知 & 香川 & 愛媛 & 徳島）
九州・沖縄	22(71.0%)	33(97.1%)	34(100%)	北1（福岡北部）、北2（福岡南部 & 佐賀 & 長崎）、 南（大分 & 熊本 & 宮崎 & 鹿児島）、沖縄
合計	194(67.6%)	278(93.0%)	291(95.7%)	

2024 年度日本看護系大学協議会 (JANPU) 災害支援対策委員会企画 災害フォーラム「能登半島地震から学ぶ大学の防災」開催のご報告

1. 開催日時

2025 年 2 月 15 日 (土) 13 時～15 時

2. 開催方法

Zoom ウェビナーによるオンライン配信

3. テーマ：「能登半島地震から学ぶ大学の防災」

4. 企画趣旨

災害支援対策委員会では、看護系大学の在り方や広報、防災教育等の重要事項を協議し、本事業の円滑、適正な運営を図るようにしている。そのような中、2024 年 1 月 1 日に能登半島地震が発生した。昨年度の本フォーラムでは緊急報告として取り上げたが、1 年を経過し、改めて被災地の大学からのご報告や支援を行われた大学からのご報告をいただきながら、大学の防災を考えるフォーラムにしたいと考えた。

5. 概要

本フォーラムは以下のプログラムで進めた。概ね予定時間通りにすべてのプログラムを進めることができたが、質疑応答は 10 分程度となった。

1) 2024 年度災害支援対策委員会ブロック活動の概要

災害支援対策委員会委員 西上あゆみ (藍野大学)

<https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2025/02/saigairenkei-block.pdf>

2) 能登半島地震特集

(1) 令和 6 年能登半島地震の被害と JANPU 対応

災害支援対策委員会委員 山崎加代子 (敦賀市立看護大学)

<https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2025/02/2024notojishin.pdf>

(2) 石川県立看護大学の対応 川島和代氏 (石川県立看護大学)

https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2025/02/20250215saigai-forum_jireihoukoku1.pdf

(3) 石川県への大学からの学生派遣の実際

① 災害支援を通じた看護学生の成長と地域コミュニティ形成 佐藤大介氏 (福井大学)

https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2025/02/20250215saigai-forum_jireihoukoku2.pdf

② 活動内容と派遣システム 小寺直美氏 (四日市看護医療大学)

https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2025/02/20250215saigai-forum_jireihoukoku3.pdf

③ 派遣を可能にするカウンターパート 國松秀美 (宝塚大学)

https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2025/02/20250215saigai-forum_jireihoukoku4.pdf

3) 質疑応答

会場からの質問はなかった。災害支援対策委員会から、学生や教職員のメンタルケアに関する質問があり、情報交換を行った。

<参加人数およびアンケート結果>

1. 参加人数

事前の参加申込人数は 325 名

当日の参加人数は 195 名（委員・事務局・話題提供者を除く）

2. アンケート結果

グーグルフォームでフォーラム終了直後～2月20日まで収集：回答者数 130 名

1) 回答者の属性

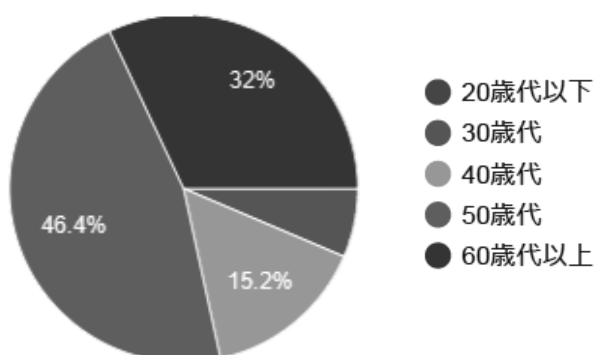


図1 年齢

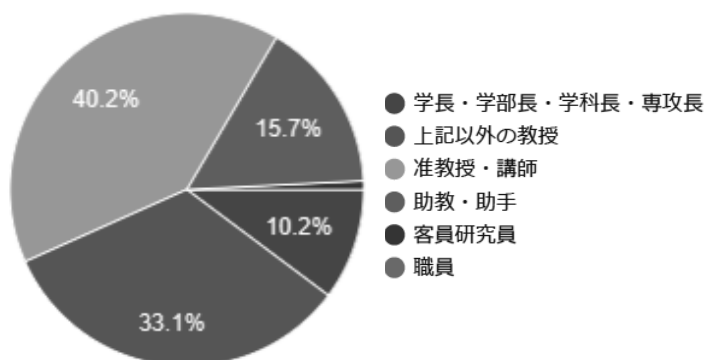


図2 職位

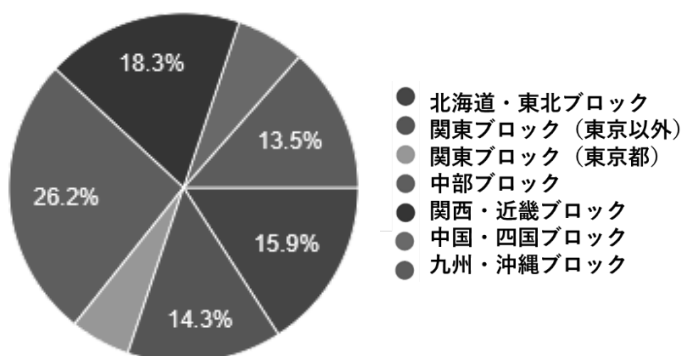


図3 勤務・在学しているブロック

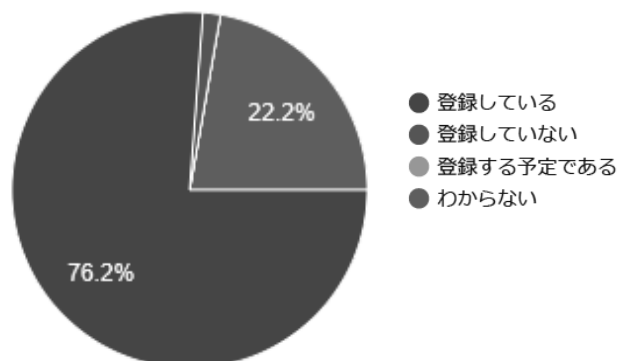


図4 JANPU 災害連携の登録

2) 2024 年度災害支援対策委員会ブロック活動の概要

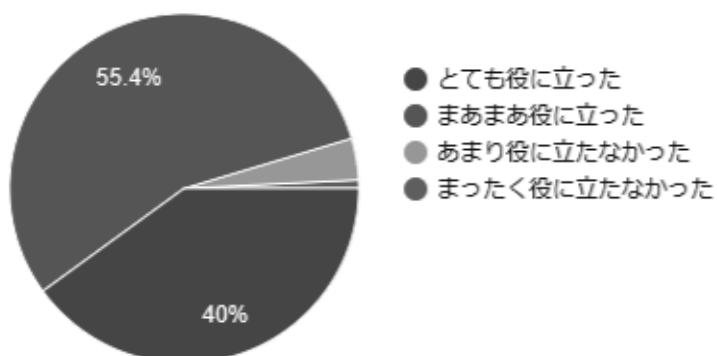


図5 2024 年度災害支援対策委員会ブロック活動の概要

＜役に立ったと思った事柄＞：これ以降の記述欄は主な内容を抜粋し要約した

- ・ブロック体制や活動の状況・特徴・課題
- ・それぞれが連携を取りながら活動されている現状
- ・当協議会のプレゼンスの大きさ
- ・災害看護の現状
- ・災害発生時に迅速に対応している現状
- ・いざというときに動けるような備え
- ・繋がり・連携の重要性
- ・当大学の課題
- ・連携の必要性は高まっているのに、本部からの具体的な指針や提案もなく、ブロックの温度差もありで、むしろ本活動は停滞もしくは後退した印象が残った

3)「能登半島地震特集」について

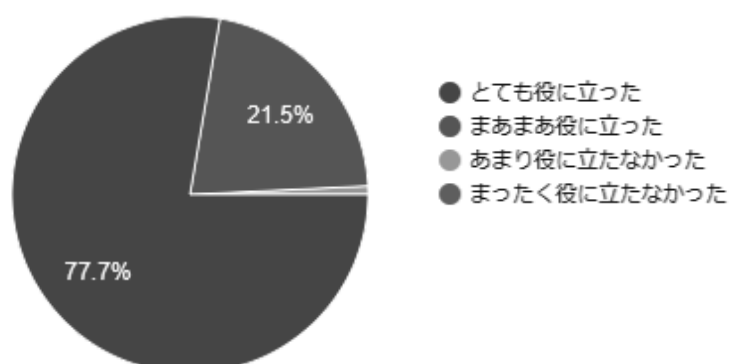


図6 「能登半島地震特集」について

＜役に立ったこと：79件から抜粋＞

【石川県立看護大学の取り組みについて】

- ・石川県立看護大学の被災地の復興に向けた教育改革の取り組み。教員の加配によって新たな教育体制が整えられたこと
- ・石川県立看護大学の川島和代先生の活動報告で、地震津波・豪雨災害の被災の中で学術研究を推進する寄附講座「災害実践看護学」を開設すること
- ・川島先生の講演内容、お人柄、真田先生の力強いリーダーシップに心打たれた。教員として学生を育てることは未来を託し創造する。大学受験人口が減少していく中、受験を希望する学生はいるのか、という言葉も心に響いた
- ・石川県立看護大学の被災大学でありながら、地域住民の声を聴き命や暮らしを守る活動は、学長を中心としたトップの考えやリーダーシップが乏しいと、スピーディに進めにくい
- ・大学と県、地域、住民とが被災後そしてこれからのまちづくりにどのように関わり、大学の使命を遂行していったのかなど具体的な話
- ・いかなる状況であれ教育、研究を止めてはいけない、という考え方
- ・災害発生地域の看護系大学として地域から期待されること、看護系大学のビジョンや具体的な指針・計画など石川県立看護大学の活動の実際
- ・真田学長の「どんな危機状況に社会が置かれても、教育・研究を止めてはいけません。未来を創る人材を育成することが、復興につながる最も大切な手段だからです」という言葉。災害発生時の具体的な取り組み計画の共有や、タイムリーな情報共有、学生や教員のメンタルヘルスの重要性

【学生によるボランティア活動の実際について】

- ・各大学での初動体制から学生ボランティアの派遣等の具体的な内容。学生ボランティアの活動、継

続、派遣方法、注意点

- ・学生の学習環境への影響の実際は、大学間や地域からの支援の備えの蓄積データおよび取り組みの具体的な目標になる
- ・学生による支援について、日頃から大学と行政との関係づくりも重要になる
- ・福井大学、四日市看護医療大学のご発表も具体性があるもので、学生が行う足浴、マッサージ、お菓子・茶話会等、健康管理というよりは、住民を労わる活動をしながらかご参集いただき、健康の質の向上支援を併せて行うといった取り組み方
- ・学生とともに行う支援活動について、活動内容のみでなく、前後の支援や連携体制、資金面
- ・カウンターパートについて
- ・災害に関する看護学生の教育的視点や実際に活動に参加することで得られた知見等
- ・大学の学生たちの取り組みについて、食べると作るをセットにしたレクリエーションが被災者に喜ばれること、アロマのハンドマッサージ、防災士を取得するなど、何をしたら被災者のためになるのか、今後取り組んでいく指針
- ・現地の地域住民の方々への実際の対応（避難所指定ではなかった大学を地域住民へ開放したこと等）
- ・災害教育を実施する上で、大学内だけでなく日頃から地域コミュニティと連携をし、その時を想定した活動が必要。1. 地域のニーズをキャッチする人（カウンターパート等）の存在の重要性、2. 宿泊施設や移動手段などの確保に資金とスキルが必要と分かったこと、3. 学生の事前学習やデブリーフィングやリフレクションを取り入れておられること
- ・学生と支援対象者の双方の事情に配慮した活動
- ・実習や授業などがある中で、被災地に向けての思いや学生に体験させたい、考えさせたいということが伝わってきた

3. フォーラムに関する質問、意見、感想

<感想・反省点・今後の課題等>

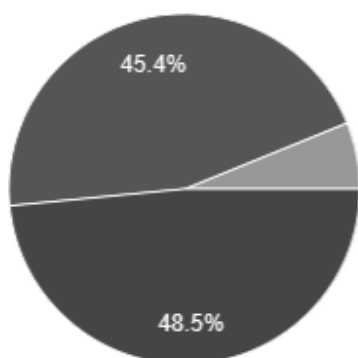


図7 2月開催への評価

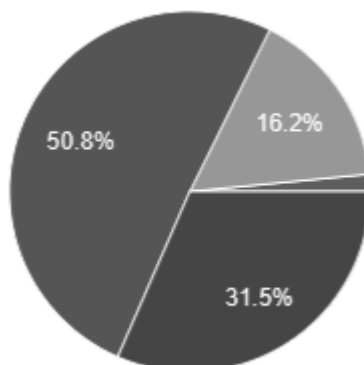


図8 休日開催への評価

- とても良かった
- まあまあ良かった
- あまり良くなかった
- まったく良くなかった

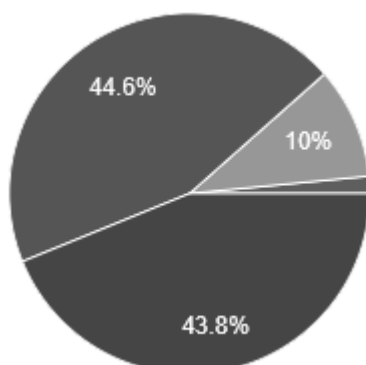


図9 午後開催への評価

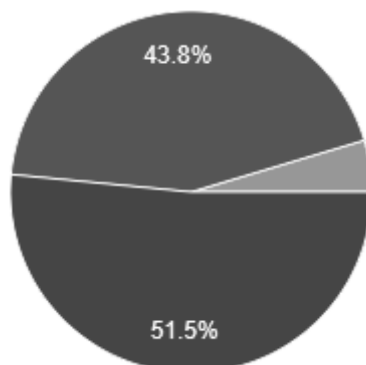


図10 開催時間(2時間)への評価

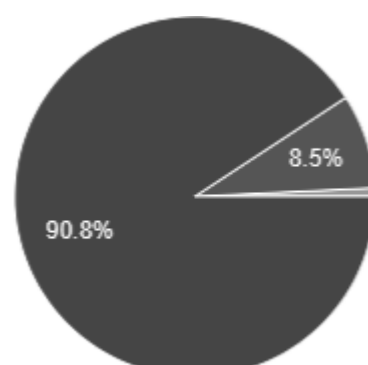


図11 Zoom開催への評価

＜役に立ったこと：37 件のまとめ＞

- ・災害看護以外の教育の保障についての詳細
- ・具体的な実践を知ることができ、今後の本学での講義や体制強化に活かしてまいりたい
- ・災害発生時には当事者、ボランティア参加に関わらず、事後のメンタルサポートが重要である
- ・学生派遣の実際は災害看護学生サークルがなく関心があったため参考になった。ただ実際に派遣となるとハードルが高く、まずは平時の地域の備えの支援に大学（学生）-住民を繋げる活動から始めていこうと思う
- ・今後災害が発生した時の対応・受援などについて考えるきっかけとなった
- ・大学の使命を果たすために努力しつつ、災害対策をする可能性を検討することの覚悟が必要だ
- ・実際の取り組み内容が伝えられ、状況の理解と、また自身の所属先で何ができるのかを考える機会になる。この1年間の取り組みをまとめられることは、タイムリーに情報が伝えられることの大切さも改めて感じた。とても貴重な内容のテーマのフォーラム発表
- ・JANPU 災害支援対策委員会の活動、各ブロックのネットワークが、実際の発災で大きく貢献している。平時の活動が、発災の活動に直結していることを改めて認識した。また、フォーラムを企画していただくことで、情報を共有する機会となるので、今後も続けて欲しい
- ・各大学の支援の取り組みを聞いて、大学間の横のつながりが出来ると良い
- ・本日のフォーラムのお話を聴きながら、東日本大震災での経験がなぞるように思い出された。地震に限らず災害の多い国なので、それぞれの災害での経験や学びを共有して、備蓄にとどまらず、平時から行動指針を準備して災害に備える重要性を感じた。また大学が置かれている地域の特性によって、大学に期待されることも異なるのではないかと思います、より平時からの地域を知り連携を図ることが必要である
- ・毎年参加しているが、災害が続き、支援活動を重ねるごとに、支援のニーズが明確になる
- ・現地で被害を受けた大学は、大変な思いを抱えながらのご発表、申し訳なく思うと同時に、当事者にならなければわからないご経験を伝えていただけることに感謝し、大切に学ばせていただきたい
- ・フォーラムの内容が具体的実践を反映しているため充実している
- ・様々な大学が災害支援を企画しボランティアに入られている実態を知り、素晴らしいと感じた。地元大学として息の長い支援ができるよう連携・引継ぎを受けたい
- ・ブロック活動：基礎自治体との災害協定を加盟施設がどのように結んでいるか。それを把握できているか。平時の連携や訓練参加・災害時活動の費用弁償の内容・地元他医療系団体（医師会など）との連携の有無などは具体的にどうか。（遠くの被災地に目を向けるだけではなく、自らが被災した場合に重要なことと思う。どの自治体の災害担当者も医師会も、「被災時に看護師をどのように集めたら良いのか」と常に悩んでいる）

開催方法については、昨年度の結果を踏まえ、オンライン開催とした。開催方法に関する評価は図7から図11の通りであるが、概ね昨年と同じ回答である。2月の土曜日の午後に開催とし、昨年よりは事前申し込みも当日の参加者も減ったが、アンケートへのご意見は多くみられた。記述においては国家試験日の前日であったこと、短く感じるなど開催時期、時間に関するご意見も少し見られたが、「能登半島地震特集」の内容については好意見が多くあった。今年度もアンケート結果から、自大学の防災の見直しにつながる内容となるなど活かしていただけるのではないかと思いますという意見が多かった。

＜ご要望＞

- ・翌日が看護師の国家試験で出発があり忙しかった。1月もしくは3月の開催が良い
- ・元々、行政にいたこともあり、災害時は特に、大学と行政が連携をし、学生を育成していかないといけないと思っているが、困難な点もあるかと思う。その部分も聞いてみたかった
- ・最後のディスカッションが興味深かったが、時間が押していたのが残念

- ・とても短く感じた。お尋ねしたいこともあって、でも全国規模のご参加なので手上げはしにくく、チャットを使おうと思ったが、使用を停めていたのか、使用できなかった
- ・資料に目をとおす時間確保をしたいため、資料の提示がもう数日早いとありがたい

＜今後開催してほしい企画：33 件のまとめ＞

- ・災害時の食支援
- ・被災学生、被災した教員、学生、父兄等のメンタルヘルス支援の具体的内容等
- ・教育改善に結びつけて事例の紹介
- ・大学に所属する教員の災害意識を高めるための方策
- ・地域看護や在宅看護実習に学生が行っている際に災害が起こった時の対応や取り組みについて
- ・被災地の看護系大学の状況/対処について阪神淡路大震災以降の変遷から学ぶ企画
- ・諸外国の大学や看護大学で、災害看護の教科目が設置され、先駆的教育や活動をしているところの教育講演
- ・災害看護の学生教育(被災地にいかなくてもできる、災害教育に関するミニマムリクワイアメンツ)
- ・学生向けの災害シミュレーション教育(演習)に関するテーマ等の企画を、後期開始前(9月頃)に開催してほしい
- ・災害に強い看護師を育てるために具体的にどのような教育が必要か
- ・災害看護教育の実際(カリキュラム等)
- ・能登半島地震の現地の継続した報告会
- ・DMAT との連携
- ・加盟施設が位置する自治体との連携・協定について。(質問事項に関連して)基礎自治体との災害協定を加盟施設がどのように結んでいるか。それを JANPU は把握できているか。協定などがある場合、平時の連携や訓練参加・災害時活動の費用弁償の内容・地元他医療系団体(医師会など)との連携の有無などは具体的にどうか。そのようなことを加盟施設や JANPU はどの程度必要と感じているか
- ・大学の BCP、避難後の継続支援の実情など
- ・大学内や看護学部内での災害訓練の実情や課題について
- ・大学、学生が地域とともに防災活動を継続的に実施していくための仕組みづくり(活動費含めて)
- ・南海トラフ地震
- ・災害といえば地震のイメージが強いが、学生が災害の概念を広くもてるように、また、授業内容を充実させるためにも台風、水害なども加えて欲しい
- ・過去の災害についても改めて「いま考える災害の重要性」を再考する企画

ご意見に関する回答

- ・様々なご意見ありがとうございました。開催時期は、アンケートでは2月開催に賛同する意見も多いので、コメントでのご意見も踏まえて検討させていただきます。
- ・今後も、ご意見を参考に看護系大学における会員校の皆様の防災意識を高め、各大学の取り組みに寄与できるフォーラム企画を検討していきます。